

2台のピアノの午後

—— セミ・クラシックとグノー・サン＝サーンス ——

MATINEE MUSICALE
DEUX PIANOS

DEMI-CLASSIQUE ET GOUNOD, ST.-SAENS

2002年 1月 6日(日) 14:00

新宿文化センター 小ホール

第一部 2台ピアノによるセミ・クラシック(II)

1. アレッタ・オハーン：主題とジャズ変奏曲

ARLETTA O'HEARN: THEME AND JAZZ VARIATIONS

* オハーンは、米国オレゴン州ポートランドを拠点に活躍する女性ピアニスト、教育者、作曲家である。ナイトクラブでジャズピアノの演奏経験を積み、よく現場を知った人らしく、その書法はあくまで自然で、奇をてらったところがない。この作品では、シンプルな主題提示のあと、スローワルツ、ブギウギ、ジャズワルツなどの典型的様式を示したバリエーションが続いている。

2. ウィリアム・ギロック：パリ二題 —— パリの街角、パリの情景

WILLIAM GILLOCK: ON A PARIS BOULEVARD, THE PORTRAIT OF PARIS

* ギロック(1917-93)は、現代米国で最も著名なピアノ教育者であり、あくまでクラシック的でありながら、ジャズ・ポップスの要素も巧みに取り入れた教育用作品を多数残している。日本でも教材として広く普及しているが、むしろ子供よりも大人に人気が高いようだ。この2作品は、いずれも瀟洒なワルツ形式で、アメリカ人がパリに対して抱く憧憬を巧みに表現したものである。

3. アストル・ピアソラ・メドレー

ASTOR PiaZZOLLA MEDLEY

UNDERTANGO - INTRODUCCION AL ANGEL - VIOLENTANGO

* ピアソラ(1921-92)といえば、ヨー・ヨー・マの弾く情熱的なリベルタンゴで、日本でもすっかりポピュラーな存在となった。生地ブエノスアイレス、ニューヨーク、パリを拠点に活躍し、ジャズ、クラシックの書法を既成のアルゼンチン・タンゴに融合させた個性的な音楽を創造したが、生前は、タンゴ界からもクラシック界からも異端者扱いされることが多かったといわれる。第1曲〈ウンデルタンゴ〉と第3曲〈ヴィオレントタンゴ〉は、傑作として名高い連作〈6つのタンゴ〉から、第2曲〈天使への序奏〉は同じく有名な連作〈天使〉シリーズから。

演奏： 西原・益子(1, 3) 川崎・藤田(2)

第二部 サン＝サーンスの2台ピアノ作品 (IV) —— グノーとサン＝サーンス ——

カミーユ・サン＝サーンス CAMILLE SAINT-SAENS (1835-1921)
フランス近代音楽の先駆者。代表作〈動物の謝肉祭〉ほか、あらゆるジャンルに作品多数。
* * * * *
シャルル・グノー CHARLES GOUNOD (1818-93)
フランス・ロマン派の最も有名な歌劇作曲家。代表作〈ファウスト〉ほか、歌曲、合唱曲が有名。

4. 前奏曲とフーガ ホ長調 作品99-1 PRELUDE ET FUGUE EN MI, OP.99-1

* 原曲はオルガン曲(1894年)で、シャルル・マリ・ヴィドール(1844-1937)に献呈された。ヴィドールは、いわゆるフランク派の作曲家・オルガン奏者で、パリのサン・シュルピース教会のオルガニストを65年もの長きにわたって務めあげた人物である。しみじみと落ち着いたたたずまいの佳品である。

5. J. S. バッハ＝グノー：アヴェ・マリア J.S. BACH = CH. GOUNOD: AVE MARIA

* 1859年作曲。大バッハの〈平均律クラヴィーア曲集〉第1巻の第1前奏曲をそのまま伴奏として用い、アヴェ・マリアの旋律を付したものである。〈グノーのアヴェ・マリア〉として、日本でも広く親しまれている。

6. グノー：協奏組曲 (サン＝サーンス編曲 2台ピアノ版) CH. GOUNOD: SUITE CONCERTANTE (TRANSCRIPTION POUR DEUX PIANOS PAR C. SAINT-SAENS)

- I. ENTRÉE DE FETE 祝典序曲
- II. CHASSE 狩
- III. ROMANCE ロマンس
- IV. TARENTELLE タランテラ

* グノーが、歌曲以外の分野にもこれほど魅力的な作品を残していることは、ほとんど知られていない。原曲は、ペダル・ピアノ(足踏み鍵盤付ピアノ)と管弦楽のための協奏的作品である。サン＝サーンスの編曲(1888年)は、原曲を2台ピアノ用に再構成したもので、その驚くべき編曲手腕により、グノーの魅惑的な旋律美を最大限に引き出すことに成功している。現在では、原曲、2台ピアノ版ともにほとんど知る人もなく、音楽史の闇に埋もれようとしているのはあまりにも惜しい。今回の演奏はおそらく日本では初演と思われるが、今後もこの作品は折に触れてとり上げていきたいと考えている。

演奏：西原・益子(4, 6) 川崎・藤田(5)

演奏者紹介 PLANISTES

西原 昌樹	MASAKI NISHIHARA	1972年岡山県生まれ. 上智大学卒業.
益子 徹	TETSU MASHIKO	1976年栃木県生まれ. 宇都宮大学卒業.
川崎 文彰	FUMIAKI KAWASAKI	1963年福岡県生まれ. 1996年よりピアノを開始.
藤田 徹	TORU FUJITA	1973年埼玉県生まれ. 東邦音楽大学卒業.

グループPCC コンサート記録

2001年2月24日 板橋区民会館小ホール 2台ピアノの夕べ
〈サン＝サーンス(I)とダマーズ〉 <ST.-SAENS ET JEAN-MICHEL DAMASE>
ダマーズ: ソナチネ, パストラール, トッカータと終曲
サン＝サーンス: アルジェリア組曲, 前奏曲とサラバンド, ヴィクトル・ユゴーへの賛歌

2001年6月2日 トモノホール(市ヶ谷) 2台ピアノの夕べ
〈セミクラシック(I)とサン＝サーンス(II)〉 <DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS>
コール・ポーター・メドレー, ナザレー: コンフィデンシラス, R. R. ベネット: 組曲
サン＝サーンス: アラブ綺想曲, ロマンズ, ヘラクレスの青年時代

2001年10月13日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ
〈アングロサクソンとサン＝サーンス(III)〉 <ANGLETERRE ET ST.-SAENS>
ローリー: 組曲, V. ウィリアムズ: グリーンスリーブス幻想曲, ブレイク: 舞曲集
サン＝サーンス: 春はきたりて, 交響曲第1番(2台ピアノ版)

2001年11月24日 榎坂スタジオ
クレメンティ生誕250年に向けて——ピアノソロと連弾
<PRE-250TH ANNIVERSARY OF MUZIO CLEMENTI>
連弾ソナタ OP.3-3, OP.14-3, 独奏ソナタ OP.24-2, 打楽器伴奏付ワルツ OP.39 より

*グループPCC 次回のコンサートは、2002年3月17日(日)19:00新宿文化センター小ホールで、
〈2台ピアノの夕べ——原智恵子さんを偲んで〉を開催します。戦前・戦後に日本とヨーロッパで活躍、
〈東洋の奇跡〉と称えられた名ピアニスト原智恵子さん死去(2001年12月9日)の報に接し、世代を
超えたファン立場から開催するものです。昭和25年の2台ピアノ演奏会の曲目を再現します。

*ご意見・ご感想をお寄せ下さい。お手紙は 〒169-8799 新宿北郵便局留め オフィスPCC 宛。
e-mail は pccpiano@hotmail.com にどうぞ。